

2022 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	温 文
研究機関名	東京大学
所属部署名	大学院工学系研究科人工物工学研究センター
役職名	特任准教授
研究課題名	計算論的アプローチを用いた身体意識のモデル化と臨床検証
研究実施期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究成果の概要

2022 年度では主に以下の成果を挙げた。まず、慶應義塾大学病院および駒木野病院との共同研究で、26 名の統合失調症患者に対して画面上のドットを動かすシンプルな認知テストを実施した。ドットの実操作と運動の主体感を測定することで、身体意識の変化を調査した。この成果は、国際学会 2023 Congress of the Schizophrenia International Research Society で研究発表を行った。次に、畿央大学の研究者と共同で、運動発達失調の子供を対象に、ドット操作タスクを 200 人分実施し、身体意識と運動制御の発達の関連性を解明した。この成果をまとめた論文も国際学術誌 Scientific Reports に掲載された。さらに、畿央大学の研究者と共同で、運動主体感は学習によって変化するかどうかについて調べた。この成果は国際学術誌 Behavioral Sciences に掲載された。最後に、東京大学の今水寛教授と共著で、Nature Reviews Psychology に運動の主体感に関する総説論文を掲載した。これまでに既に 20 回引用されている (Google Scholar 調べ)。